自立活動を主とした教育課程

高等部 第〇学年〇組　自立活動（学級） 学習指導案

日 時 〇月〇日（〇）〇校時場
所 自立活動室Ⅱ
指導者 Ｔ１〇〇〇〇 Ｔ２〇〇〇〇
Ｔ３〇〇〇〇

１　題材名　　「クラスｄｅミュージック」

２　題材の目標

（１）　聴いたり、見たり、触れたりすることを通して感じたことを、発声や表情、視線の動き、身体の動きで表す。【コミュニケーション（１）】

（２）　音楽活動を通して教師の働き掛けに応じたり、友達と活動を共有したりする。【人間関係の形成（１）】

３ 生徒と題材

（１）生徒について

本学級に所属する生徒は、男子１名、女子２名であり、自立活動の学習を主とする。コミュニケーション面では、３名とも学校生活全般を通して教師や友達からの働き掛けに相手の方を見ようと目や頭を動かしたり、発声で応えようとしたりすることが多くなってきている。学習面では、音楽を使った活動や一人一人の役割がある活動などに意欲的であり、腕や手指を動かして活動に取り組もうとすることが増えてきている。また、繰り返し行う学習に期待感をもち、その気持ちを発声や表情、身体の動きで表すことも多くなってきている。

（２）題材について

本題材では、３名とも音楽が好きで、興味関心が高いため、「クラスｄｅミュージック」という音楽活動を柱とした活動を設定した。音楽には三要素（メロディー、リズム、ハーモニー）があり、それを生かして五感に働き掛けることで、個々の発達段階やねらいに即した学習内容を設定できる。さらに好きな音楽活動を介して、身近な教師や友達と関わることで、快の状態が持続し、自分を表現することの楽しさや他者とつながることの喜びを味わえるのではないかと考え、本題材を設定した。

（３）指導について

・「手と手と手と」では、期待感がもてるように毎回違う教師と一緒に活動するようにペアを設定し、最後はみんなで楽しめるように輪になるなど配置を工夫する。【人間関係の形成（１）】
・「波の音を感じよう」では、生徒の手の動きを生かして音を鳴らしやすいオーシャンドラムを用意する。自分で鳴らしていることが分かるように一人ずつ鳴らす場面を設ける。また友達を意識できるように、教師と一緒に次の友達へ楽器を渡す場面を設ける。【人間関係の形成（１）】
・楽器の音色（聴覚）を楽しむだけでなく、視覚や触覚に働き掛けるために、カバサという楽器を使う。【環境の把握（１）】
・音積み木等の楽器を使った活動では、生徒のわずかな視線の動きや表情の変化を教師が感じ取り、その気持ちをきちんと受け止めてから生徒と一緒に鳴らすことを心掛ける。【コミュニケーション（１）】
・パラバルーンの活動では、クールダウンできるようにバルーンをゆっくり動かしたり、緩やかなＢＧＭを流したりする。【心理的な安定（１）】
・生徒の気持ちを高めたり、緩めたりできるように、使用する曲のテンポや曲調に緩急をつけて授業を構成する。【心理的な安定（１）】

4　本題材における生徒の実態及び目標

氏名	実　態	目　標
Ａ女	・音楽活動全般を好み、曲調に合わせて身体を揺らす。 ・楽器を鳴らす友達や教師の方に視線を向けたり、顔を動かしたりすることがある。 ・気分にムラがあり、興奮し過ぎて身体を揺らし続けるときがある。	・教師と触れ合う活動場面において、うれしい気持ちを発声や身体の動きで表す。 【コミュニケーション（１）】 ・楽器を鳴らす友達や教師の方に視線を向けたり、そのとき感じた気持ちを表情や身体の動きで伝えたりする。【人間関係の形成（１）】
Ｂ女	・友達や教師が鳴らす楽器の音をよく聴いて、視線を向けたり、笑顔になったりすることがある。 ・突然鳴る音に反応して発作を起こすことがあるが、金属音や効果音のような変わった音の出る楽器が好きである。 ・医療的ケアを必要とし、痰の吸引が多いとき　は床面に降りて活動する。	・楽器を鳴らす場面において、鳴らしたいところになったら視線の動きで自分の気持ちを伝える。 【コミュニケーション（１）】 ・友達や教師が鳴らす楽器の音をよく聴いて視線を向けたり、自分の気持ちを表情で伝えたりする。 【人間関係の形成（１）】
Ｃ男	・右手でバチを握ったり、手指を使ったりして楽器を鳴らす。 ・教師との触れ合いや質問に対して「はい」と答える等のやり取りを楽しみ、笑顔や発声で気持ちを表す。	・楽器を鳴らす場面において、自分で鳴らしたいところで手指を動かして鳴らす。 【コミュニケーション（１）】 ・教師や友達と触れ合う活動場面において、やりたい気持ちを発声で伝えたり、「どうぞ」と友達に楽器を渡したりする。【人間関係の形成（１）】

5　指導計画（総時数３６時間）

小題材名	時数	小題材の目標
「クラスｄｅミュージック～Ａさんのお気に入り～」	１０	・音楽や楽器の音を聴いて感じたことを発声や表情、視線の動き、身体の動きで表す。【コミュニケーション（１）】 ・ウィンドチャイムを教師と一緒に鳴らして楽しんだり、友達が鳴らしている音を聴いたりする。【人間関係の形成（１）】
「クラスｄｅミュージック～Ｂさんのお気に入り～」	１０ （本時５／１０）	・楽器に触れたり、教師や友達と触れ合ったりして感じたことを発声や表情、視線の動き、身体の動きで表す。【コミュニケーション（１）】 ・教師や友達が鳴らしているオーシャンドラムの音に気付いてじっくり聴いたり、自分も鳴らしてみたい気持ちを伝えたりする。 【人間関係の形成（１）】
「クラスｄｅミュージック～Ｃさんのお気に入り～」	１０	・音楽活動を通して感じたことを教師の働き掛けに応じて、発声や表情、視線の動き、身体の動きで表す。 【コミュニケーション（１）】 ・ビブラスラップを教師や友達が鳴らしているのを聴いて自分もやってみたい気持ちを伝える。【人間関係の形成（１）】
「クラスｄｅミュージック～クリスマスを楽しもう～」	６	・友達と関わりながら音楽活動を通して感じたことを発声や表情、視線の動き、身体の動きで表す。【コミュニケーション（１）】 ・トーンチャイム等を教師と一緒に鳴らしたり、友達が鳴らしている音色との重なりに気付いたりする。【人間関係の形成（１）】

6　本時の実際

（1）本時の目標

①教師や友達との触れ合いを喜び、楽しみ、感じたことを発声や表情、視線の動き、身体の動きで表す。【コミュニケーション（1）】

②波の音を鳴らす友達を見たり、自分も鳴らしたい気持ちを伝えたりする。【人間関係の形成（1）】

（2）個別の目標と手立て

生徒	本時の目標	手立て
A女	・教師との触れ合いを通して感じた楽しさを発声や表情、身体の動きで表す。 【コミュニケーション（1）】	・「手と手と手と」の活動場面で楽しい気持ちやうれしい気持ちを感じ、表すことができるように、教師が曲のテンポに合わせて軽快に歩いたり、楽しく歌ったりする。
B女	・教師や友達の鳴らすオーシャンドラムの音に気付いて視線を動かし、自分も鳴らしたい気持ちを表情で伝える。 【人間関係の形成（1）】	・音をじっくりと聴くことができるように、オーシャンドラムが鳴っているときの言葉掛けは最小限に留め、視線の動きや表情に変化が見られたときは、「そうだね、○○さんが鳴らしているね」「Bさんも鳴らしたいんだね」などと 本人の気持ちを代弁する。
C男	・教師との触れ合いを通して感じた自分の好きな活動を、発声や表情で伝える。 【コミュニケーション（1）】	・触れ方の違いを感じて意思を伝えられるように、「手と手と手と」や「カバサでマッサージ」の活動場面において、触れ方に緩急をつける。

（3）展開

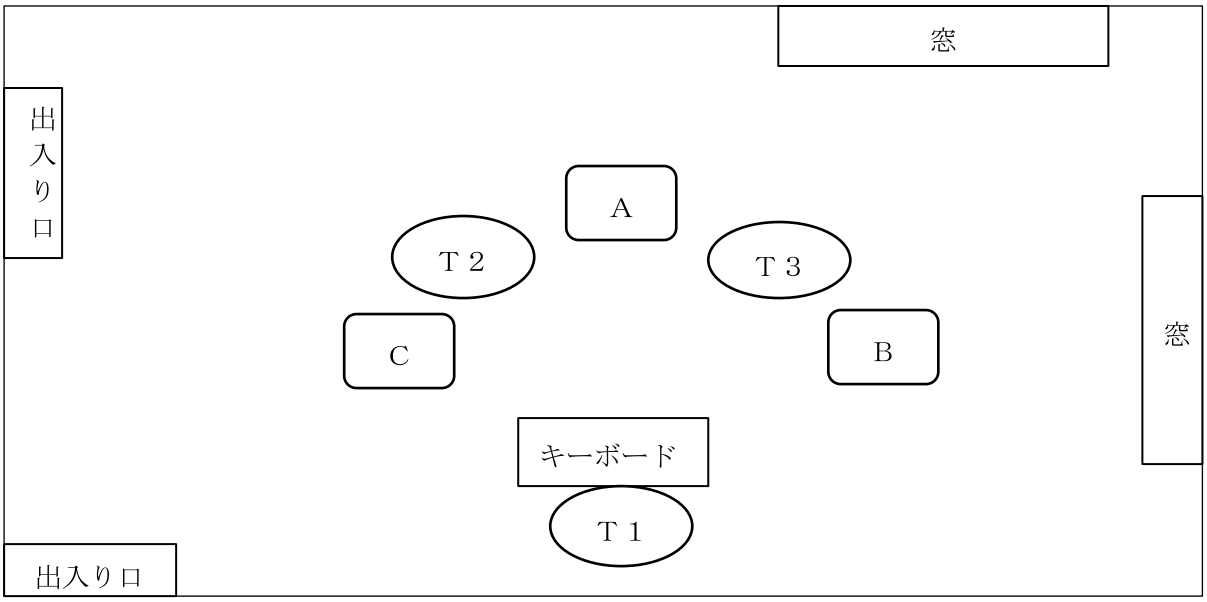
時間（分）	学習活動	指導上の留意点	準備物
5	1 始まりの歌 ・「○年○組、はーい！」を歌い、呼名されたら自分なりの方法で返事をする。	・生徒一人一人が自分のタイミングで返事できるように、伴奏するのを止めて待つ。	・キーボード ・ｉＰｈｏｎｅ ・Bluetooth スピーカー ・カバサ×3 ・オーシャンドラム ・トーンチャイム ・ベルハーモニー ・音積み木 ・パラバルーン ・ブラックライト
7	2 ウォーミングアップ ・「手と手と手と」に合わせて教師と身体の様々な部位をタッチし合う。	・安心して関われるように個々に合わせて手、肩、膝、頬に優しく丁寧に触れたり、なでたりする。慣れてきたら、タッピングの回数を増やしたり、強めたりする。	
7	3 「カバサでマッサージ」 ・カバサを使ったマッサージを受け入れる。	・触覚、視覚、聴覚など様々な感覚を味わえるようにカバサを使って、身体のどの部位に触れているのか分かるように、座位保持装置のテーブルを外す。	
8	4 「海の音を感じよう」 ・「アンダーザシー」を聴きながら一人ずつオーシャンドラムを鳴らす。 ・楽器を次の友達に渡す。	・自分で鳴らしていることを意識できるように、一人ずつ楽器を鳴らす場面を設ける。 ・期待感をもちながら自分の番を待ったり、友達を意識したりできるように、「次、鳴らしたい人」と言葉掛けしながら、教師が生徒と一緒に楽器を次の生徒に渡す。また、友達が鳴らしている様子が見えるように座位保持装置の向きを変える。	

8 １０ 5	5 「ベルを鳴らそう」 ・アメージンググレイスを聴きながら教師とベル等を鳴らす。 6 クールダウン ・座位保持装置から降りて、パラバルーンの動きを見たり、風を感じたりする。 7 終わりの歌 ・今日の活動を振り返り、「さようならの歌」を聴く。	・誰が鳴らすか意識できるように、鳴らす場面の前に名前を呼ぶ。 ・リラックスできるように生徒全員を座位保持装置から降ろして仰臥位の姿勢になるように支援する。 ・クールダウンできるように音楽を流しながらバルーンを生徒の真上でゆっくりと揺らす。 ・本時の活動を振り返り、全員で共有できるように「楽しかったね」「またやろうね」とスキンシップをとりながら言葉掛けをする。	

（4）配置図

※別紙参照

（5）評価

＜生徒＞※自立活動（集団）は具体化された個々の目標を基に評価します。

＜教師＞・友達を意識できるような場面設定の工夫、働き掛けがされていたか。【場の設定】【働き掛け】・気持ちを伝えたいと思うような楽器や曲が使用されていたか。【教材・教具】（4）配置図（自立活動室Ⅱ）